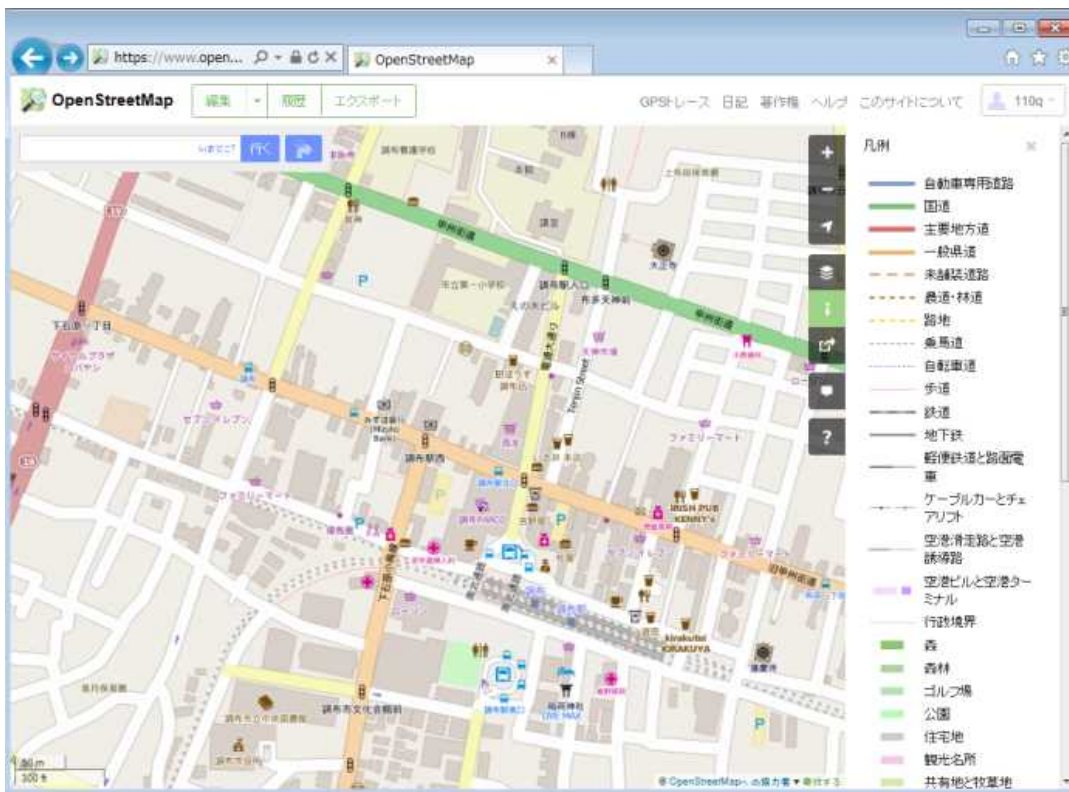


# Open Street Map (OSM) について

# OpenStreetMap (OSM)

- 誰でも利用できるように作成され、公開されている無料の地図サービス。  
(OSM財団が提供、品質は無保証)
- 世界中の有志作業者(マッパー)が建物データ(構造物の形状、種類、用途等)や道路データ(道路の種類・規模(高速道、一般道等)等)を入力・編集。  
(現在、マッパーは世界に190万人(日本には約1万人)存在。)
- 道路や通路に関する階段や段差等のバリア情報は、道路の属性として入力可能。
- データの取得を行うためのOverpass APIを実装。



道路・通路バリアの情報を表示  
・歩行者が通行が可能か  
・路面の状況  
・幅員  
・階段の段数 等

OpenStreetMap入力画面  
(左:地図閲覧画面、右:バリア情報閲覧画面)

- OpenStreetMap(OSM)の機能を利用し、建築物のバリアフリーの情報を管理。
- 全世界で約70万件(日本では約1.3万件)のバリアフリー情報を有志作業者(マッパー)が入力。
- 車いすのアクセス情報を建物ごとに3段階で評価。
  - ・アクセス可能【条件】 入口:段差なし 部屋:段差なし  
トイレ:アクセスでき、個室はトイレに車いすを横付けできるほど十分に広い
  - ・一部制限あり【条件】 入口:段差はあるが7 cm 未満 部屋:最も重要な部屋に段差が無い  
トイレ:車いすでアクセスできない
  - ・アクセス不可【条件】 入口:7 cm以上の段差がある 部屋:重要な部屋にアクセスできない  
トイレ:車いすでアクセスできない
- データの取得を行うためのOverpass APIを実装。



スマートフォン版Wheelmapの入力画面